



月2回刊=1407号
2014年2月28日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合 印刷所 盛岡市上田二丁目17-4 有限会社 ジョー印刷企画 一部 40円
組合員購読料は組合費に含む



当面のとりくみ方針など全議案を執行部提案どおり決めた臨時大会(写真上・下)

県職連合第15回 県職労第110回 臨時大会

当面の取り組み方針を決める

「給与の総合的見直し」反対署名、さらなる拡大を

県職労は、2月22日、盛岡市の自治労岩手県本部において、県職連合第15回臨時大会及び県職労第110回臨時大会を開催した。大会は、議長団に佐藤浩幸代議員(釜石支部)、皆川光則代議員(宮古支部)を選出し、14春闘方針など当面するたかひの方針を決定した。

冒頭、あいさつに立った平中委員長は「現在、人事院が検討している給与制度の総合的見直しの中身は完全に我々地方公務員狙い撃

ち、地方切り捨て、さらには現業職場切捨ての賃金引下げ政策そのものである。私たちはこれまで、特に地方において虐げられてきた

歴史・過去を再現させたくはない。勧告が出てからでは遅い取り組みであり、これ以上譲れないのだという我々の気持ちを今春闘であ

らためて奮起し、精一杯頑張つて行こう」と述べ、現在取り組んでいる人事院あての組合員1人5筆の署名の取り組みを訴えた。

代議員からは、支部独自の取り組みについて、新採用者の加入対策について、現業統一闘争の取り組みについて、青婦部独自要求の

過去に県職労が闘った74・76・80春闘、83・84確定闘争時における不当処分に対して、その撤回と実損回復実施のため、人事委員会審理を求める取り組み(不当処分撤回闘争)を展開してきた。

人事委への不服申し立て取り下げへ

取り組みについてなど、6支部8人の代議員から方針を補強する発言があった。

不当処分撤回のたたかい

これらを踏まえ、2月22日に行つた申立者集会において、不服申し立てを取り下げること決定し、同日の県職労臨時大会においても、今後の組織的対応を進めていく方針を確認した。

賃金・生活格差許さない

自治労県本部女性集会

2月15日(土)、自治労岩手県本部女性集会在盛岡市内で開催されました。悪天候のため分散会は中止されたものの、2つの講演を拝聴することができ、とても参考になりました。

講演の1つ目は、県本部野中書記長による春闘の争点と情勢報告です。講演を聞く限り、民間との格差は正という名目で進められつ



県内各支部から約50人が参加した女性集会



→それぞれの思いを「怒布」へ書き込む参加者

の前田千香子さんからお話を伺いました。前田さんは元岩手県職員ですが、その後中国茶に出会い、相手を楽しめる仕事としてお茶を選択したと語っていました。

無料法律相談実施中!!

県職労総合共済では、組合員と家族の生活支援及び不安解消のため、顧問弁護士による無料法律相談事業を実施し、1事案につき初回に限り、無料で法律相談を受けられる仕組みを設けています。

相談の流れ

- ①「法律相談を受けたい」旨、県職労本部へ連絡下さい。(相談案件を確認するもので、詳細内容をお話いただく必要はありません)
- ②県職労本部から弁護士へ相談の連絡をします。
- ③相談者から直接弁護士へ相談いただきます。
※無料となるのは初回相談のみです。継続的な相談や具体的な対応に関する費用は、相談者の負担となります。

担当弁護士

山中法律事務所 山中俊介 弁護士(元県職労組合員)



第五世代

ソチオリンピックが閉会した。華々しい競技の影で人権問題やテロの危険などが取りざたされ、世界情勢を垣間見る大会ともなった▼出場した選手たちの結果を見ると、実力を十分発揮できた選手、期待を背負いプレッシャーに押し潰された選手など、

した。私も、業務を振り返り、相手が笑顔になることを1つでも多く実行しようと思えました。(宮古支部・奥平麻里子)の政策であるが、労働者全体が苦しい中、若者と女性だけが活躍できる場をどう作るのか疑問である▼県の職場では、復興に向けた県民の期待と膨大な業務量の板挟みに心身ともに疲弊している。過度の事業予算と期待だけでは、やっつけている職員が押し潰されてしまう。県の政策も「楽しむ」感覚が必要になるのではないか。

能力実績主義賃金制度に関する検証アンケート結果

能力実績に基づく昇給制度の導入から7年が経過するが、県職労として今回初めて検証アンケートを実施した。(回答者…845)

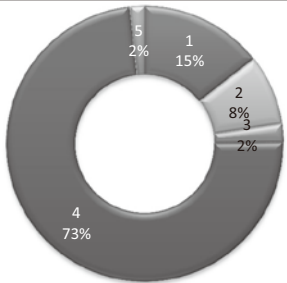
今回の調査結果を見ると、評価基準が不明確であることを指摘する回答や、4原則が確保されていないとの回答が多く、不十分な制度であることや、評価結果が勤務意欲向上につながっていないことがあらためて明確になった。県職労は、同内容のアンケートで毎年検証を重ねながら、当該制度の廃止をめぐっていく。

基本調査事項

年代	①~20代	②30代	③40代	④50代~	計
回答数	23	170	371	278	842
割合	3%	20%	44%	33%	100%

性別	①男	②女	計
回答数	709	134	843
割合	84%	16%	100%

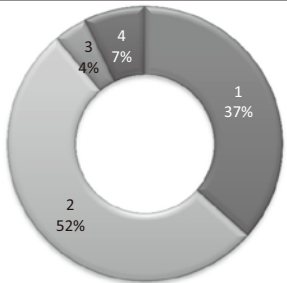
職階	①主任級以下	②主査・主任主査	③担当課長以上	計
回答数	273	429	131	833
割合	33%	51%	16%	100%



Q.評価実績面談でのフィードバック

【凡例】
①尋ねなくとも教えてくれる、②尋ねれば教えてくれる
③尋ねても提示されない、④尋ねたことがない、⑤その他

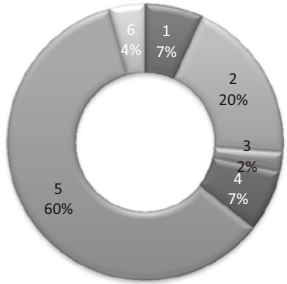
【特徴】
全体の4分の3の人が、評価結果の提示経験なしなどの結果。評価結果がその後の業務に役立っていない。



Q.業務と評価の関係

【凡例】
①評価を気にせず業務、②評価を気にする余裕なく業務、
③高評価となるよう意識して業務、④その他

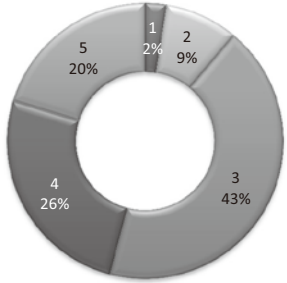
【特徴】
評価を気にする余裕もなく仕事をしている人が過半数。ほとんどの人が、評価結果と業務遂行に関連性を感じていない。



Q.評価結果をどう感じるか

【凡例】
①高評価、②適正な評価、③低評価(過程重視)、
④低評価(成果重視)、⑤評価の基準がわからない、⑥その他

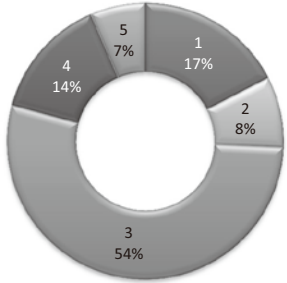
【特徴】
6割の人が評価の基準がわからないと回答しており、現行制度が機能していないことがわかる。



Q.勤務意欲の向上につながっているか

【凡例】
①つながっている、②どちらかと言えばつながっている
③どちらとも言えない
④どちらかと言えばつながっていない、⑤つながっていない

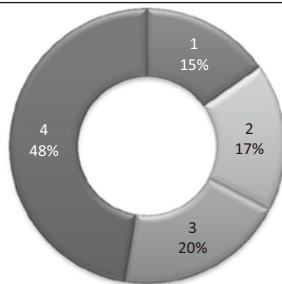
【特徴】
どちらとも言えないとの回答を除くと、能力実績主義賃金制度が勤務意欲向上につながっていないことがはっきりわかる。



Q.能力実績主義賃金をどう考えるか

【凡例】
①評価・給与反映とも廃止、②評価存続も給与反映は廃止
③納得いく制度に見直し、④今のままで良い、⑤その他

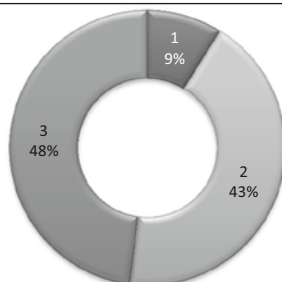
【特徴】
現行制度支持の考えは15%、給与反映は廃止すべきとの考えをあわせると、6割近い人が、現行制度に欠陥があることを指摘している。



Q.上位[A・B]評価の経験(定期昇給)

【凡例】
①複数経験、②1度経験、③経験なし、④わからない

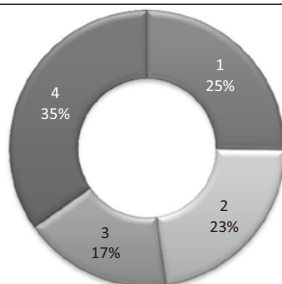
【特徴】
導入後7度の昇給を経ているが一度も上位評価の経験がないと答えた人が2割にのぼる。評価結果がわからないとの回答が約半数という実態は業務へのモチベーション醸成に寄与する制度でないことの表れであることが分かる。



Q.上位評価でも昇給幅なし(定期昇給)

【凡例】
①経験ある、②経験ない、③わからない

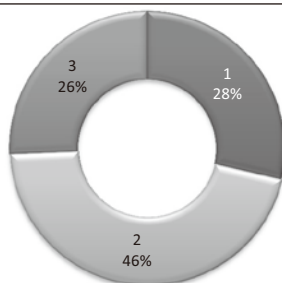
【特徴】
4級在級者の約2割、5級在級者の半数以上が最高号給に達している実態があるにも関わらず①の回答が少ない。わからないとの回答も多いが、最高号給到達者に上位評価者が少ない可能性がある。



Q.表彰以外の上位評価の経験(勤勉手当)

【凡例】
①複数経験、②1度経験、③経験なし、④わからない

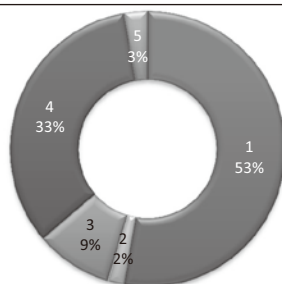
【特徴】
定期昇給よりも勤勉手当による上位評価経験の割合が高いが、昇給同様、一度も上位評価の経験がない人が2割近く存在している。



Q.表彰による上位評価の経験(勤勉手当)

【凡例】
①経験ある、②経験ない、③わからない

【特徴】
表彰経験者は全体の3割。半数が表彰経験なし。



Q.評価面談

【凡例】
①適切な助言ある、②叱責や非難がある
③面談の必要性感じない、④面談自体は必要、⑤その他

【特徴】
多くが面談の必要性・有効性を感じている。

2014年 新年号 クイズ 当選者発表

県職労機関紙「新春プレゼントクイズ」には57通の応募があり、うち51通が全問正解でした。

《クイズの正解》

Q1 ③用地交渉
Q2 2270
Q3 ④じえじえ

抽選の結果、次の15人の方々が当選されました。

当選、おめでとうござい
ます。



- 【特別賞】清温荘宿泊券
大澤 仁さん (胆江支部・林務部)
- 【復興応援賞】
・久慈「野田村特産物セット」
山口 耕司さん (県庁支部・管財課)
- ・宮古「三鉄オリジナルギフト」
菅川 清春さん (盛岡支部・産業技術短期大学校)
- ・釜石「三陸海宝漬」
平 吉美智さん (盛岡支部・県税部)
- ・気仙「恋し浜ホタテ」
武藤 諭さん (胆江支部・総務部)
- 【図書カード】千円分
工藤 忠寛さん (県庁支部・農村計画課)
- 長谷川 俊夫さん (県庁支部・調査統計課)
中井 孝昭さん (盛岡支部・県税部)
佐藤 誠さん (胆江支部・県税部)
小島 敏雄さん (胆江支部・総務部)
澤口 陽平さん (宮古支部・林務部)
立花 一さん (久慈支部・保健福祉環境部)
藤沢 巧さん (二戸支部・県北農業研究所)
富田 典子さん (二戸支部・地域振興センター)
岩淵 宏さん (二戸支部・地域振興センター)

※調査結果の詳細は、県職労ホームページに掲載しています。